

青少年教育施設と連携した取組【居場所づくり】 ～ ネイパル深川 ～

1 活動名

エンジョイ・コミュニケーション！

2 対象

中学校第2学年（80名程度）

3 時期

6月

4 活動の概要

望ましいコミュニケーションの在り方を理解し、協力して課題を解決する活動を行う。



5 ねらい

- ・人によって多様な考え方があること、また、他者のそれを認めることの大切さを学び、生徒相互や集団における望ましいかかわり方を理解する。
- ・良好なコミュニケーションに必要な行動は何かを考え、学年や学級として共有する。

6 活動の流れ（60分×2）

エンジョイ・コミュニケーション①《相互理解》		
項目	内容	配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ●意図説明（5分） ●他者理解（10分） ●関係づくり（20分） ●相互尊重（15分） ●振り返り（10分） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆目的やゴールの説明 ◆インタビュー <ul style="list-style-type: none"> ◎配布された用紙をもとにインタビューし、相手の名前を自分の紙に書き入れる。 ・これまでの学校生活では交流することが少なかった生徒とのかかわりや、友人の新たな面に触れる。 ◆バースディライン <ul style="list-style-type: none"> ◎言葉を使わずに、誕生日順に輪をつくる。 ・非言語の活動を体験することで、言語以外の表情や動作によっても、相手への伝わり方や印象は大きく異なることを学ぶ。 ◆共通点探し <ul style="list-style-type: none"> ◎新たなグループメンバーで共通することを探す。 ・直前の学び（表情等）を活かしながら、新たな人間関係の構築を促す。 ◆サバイバル・ライフ（合意形成ゲーム） <ul style="list-style-type: none"> ◎無人島で生き残る際に、重要だと思う物品の順位と理由をグループで決定する。 ・自分と異なる考え方を知り、それを尊重する姿勢を学ぶ。 ◆活動を通して感じたことや考えたことの共有 	<ul style="list-style-type: none"> ■教員も中に入り、積極的になれない生徒へのサポートを行う。 ■全体で大きな輪をつくり、誕生日毎のグループをつくる。（これ以降新たなグループで活動） 例）犬を飼っている、青が好き、運動部に所属している ■グループで話し合う際に、相手の考えを否定しないことを強く説明する。 ■自分と異なる考えに触れる時こそ、自分の考えを広げるチャンスであることを理解させる。

エンジョイ・コミュニケーション②《課題解決》※グループ活動。6～8人で1グループが望ましい。		
項目	内容	配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ●活動説明（5分） ●課題解決ゲーム①（15分） ●課題解決ゲーム②（30分） ●振り返り（10分） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆活動の説明 ◆ペーパータワー <ul style="list-style-type: none"> ◎折り方や積み方を工夫し、A4用紙をできるだけ高く積む。 ・失敗をおそれず、挑戦する姿勢を養う。 ◆五色綱引き <ul style="list-style-type: none"> ◎班で作戦を立て、五色の綱を自陣に引き入れる。 ・他者の意見を聞き、協力する姿勢を養う。 ◆学んだことを共有し、学校のどのような場面で活かせるか、自分はどうだったかを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■エンジョイ・コミュニケーショントレーニング①の学びを振り返る。 ■話し合いをしないと、課題は解決しないことを説明する。 ■多数決ではなく、少数意見にこそ、貴重なアイデアがあることに触れる。 ■他者の考えを受け入れることの大切さに気付かせる。

7 研修全体の日程例

1 日目	2 日目
9:30 到着、出会いのつどい	9:00 創作活動
10:00 エンジョイ・コミュニケーション①	Eco my 箸づくり
11:00 野外炊事	10:30 エンジョイ・コミュニケーション②
14:30 屋外ウォークラリー (班活動)	11:30 振り返り
17:30 夕食	12:00 昼食
18:30 ベッドメイキング	13:00 別れのつどい
19:00 キャンプファイヤー	13:30 出発
20:30 入浴・休憩・就寝	

創作活動は多種あり、グループごとに選択できます。

施設外の6kmのコースを、問題を解きながら歩き、班の協調性を高めます。

この2日間の活動振り返る時間を確保し、学校での活動における効果の持続を図ります。

8 事前準備 (打合せ)、指導の例

- ・コミュニケーション活動に関する打合せ

事前に、コミュニケーション活動について、生徒の実態や先生方の要望、2回の活動の位置付け、それぞれの意義などを確認し、施設職員が内容を提案する。

9 事後の研修成果の活用例

- ・継続的なコミュニケーション活動の取組

学期に1~2回程度、コミュニケーション活動を行うことで、人間関係の在り方を見直し、生徒が安心して生活できる居場所づくりにつなげる。

10 参考事例

- ・A中学校の事例 (第2学年15名)【平成27年5月15日(金)~16日(土)】

1 日目	2 日目
10:30 到着、出会いのつどい	9:00 ドミノ活動
11:00 コミュニケーショントレーニング	11:45 昼食
12:00 昼食	12:45 フロアカーリング
13:30 屋外ウォークラリー (班活動)	15:00 出発
15:00 フロアカーリング計画作成	
17:15 夕食	
18:30 クライミング	
20:15~入浴・就寝	

・話の聴き方
 ・相互尊重 (キャッチボール)
 ・協調性 (フーリレ)

前日の話合いをもとに、生徒が運営を行った。

コミュニケーショントレーニングの内容を振り返りながらの話合い活動を行った。

11 いじめの未然防止にかかわって期待できる効果

① コミュニケーション能力の育成

宿泊研修の早い段階でコミュニケーショントレーニングを行い、他者とのかかわりを考えた後に様々な体験活動を行うことで、相互理解が促進される。また、その後の活動のコミュニケーションの在り方を考えさせることで、期間中の気付きを促すことができる。

② 自他尊重の精神の涵養

宿泊研修の後半に、他者の意見を尊重することを主目的とした課題解決型学習を行う際、新たなグループを形成し、それまでとは異なる小集団で活動することで、人間関係を再構築するとともに、相互理解を深め、自他尊重の精神を涵養することができる。



青少年教育施設と連携した取組【絆づくり】 ～ ネイバル北見 ～

1 活動名

フォトラリー

2 対象

小学校第5学年（80名程度）

3 時期

9月

4 活動の概要

グループのメンバーだけで周辺のフィールドを回り、与えられた課題に取り組む。



5 ねらい

- ・仲間と協力して課題に取り組むことで、達成感を味わうとともに絆を深める。
- ・グループでの話し合いを通して、意見を伝える力や相手の意見を聞く力を身に付ける。
- ・自然に触れることで、自然に親しむ気持ちを育む。

6 活動の流れ（180分）

フォトラリー		
項 目	内 容	配慮事項
●意図説明 （5分）	◆目的やゴールの説明	■カメラの使い方の説明も行う。
●交流ゲーム （25分）	◆フォトビンゴ ◎配布されたビンゴカードに示されたテーマに合った写真をグループごとにネイバル敷地内で撮影する。 ・カメラの使い方を学ぶとともに、カメラを用いたゲームに取り組むことで、交流を深め、フォトラリーに積極的に参加する意欲を喚起する。	■これ以降の活動を6名程度のグループで活動する。 ■教員も活動に加わり、積極的になれない児童のサポートを行う。 テーマの例) 虫、黄色い花、 仲間の笑顔 等
●活動実施 （120分）	◆作戦会議 ◎役割分担や歩行ルート、グループ内ルールを話し合って決定し、シートに記載する。 ・一人一人が考えた作戦を交流し、どのような順番でチェックポイントをめぐるか交流する。合意を形成する過程で、自分とは違う考え方があることに気付くとともに、他者への思いやりの重要性を学ぶ。 ◆フォトラリー ◎チェックポイントを目指して歩き、シートに記載された場所で集合写真を撮影する。 ・互いの状況や残り時間を確認し、作戦の見直しや工夫について、自分のアイデアを伝えたり、体力面に不安のある仲間を励ます中で、互いの絆を深める。	■地図の見方、危険箇所や害虫、熱中症等、活動を行う上での注意点を説明する。 ■構成員の体力に応じたルート設定の重要性を強調して説明する。 ■チェックポイントや道に迷いやすい場所に教員を配置する。
●振り返り （30分）	◆活動を通して感じたことや気付いたことの交流 ◎宿泊研修や今後の学校生活でどのように生かしていくべきか意見を分かち合う。	■結果よりも作戦会議や活動の過程に焦点をあてる。 ■教員からも感想や気付いたことを伝える。

7 研修全体の日程例

1日目	2日目
9:30 到着、出会いのつどい	9:00 カヌー・いかだ体験
10:00 フォトラリー	雨天時：ドミノチャレンジ、 フロアカーリング
13:00 昼食	12:00 昼食
14:00 野焼きパンの生地づくり	13:00 別れのつどい
15:00 原始火起こし体験	
16:00 野外炊飯（カレーライス・野焼きパンなど）	
19:00 キャンプファイヤー	
20:00 入浴・休憩	
22:00 就寝	

より協力性が必要なカヌーやいかだ活動をプログラムの最後に実施することで、絆づくりの効果を高めます。

フォトラリーでの気付きや深めた絆を生かして、他者との関わり、支えあいの重要性を実感できる活動プログラムとなるように心掛けます。

8 事前準備（打合せ）、指導の例

- ・教諭による下見、事前体験

施設職員と引率教諭が、児童の実態や活動のねらいを確認するための打合せを実施するとともに、児童が安全に活動できるようにするために、活動するフィールドの下見や事前体験を行う。その際、振り返りのすすめ方や、研修成果の活用方法についても確認する。

9 事後の研修成果の活用例

- ①学級や学年行事等でのレク活動の実施

宿泊研修での経験を生かし、学校周辺をフィールドとしたフォトラリーやウォークラリーなどのグループ単位で活動できるレク活動を実施する。

- ②課題解決型の学習の継続実施

教科、特別活動、総合的な学習の時間等において、仲間と共通の課題を主体的に解決する学習を継続的に実施する。

10 参考事例

- ・B小学校の事例（第5学年39名）【平成27年9月1日（火）～2日（水）】

1日目	2日目
9:20 到着、出会いのつどい	6:00 起床
10:00 カヌー・いかだ	7:30 朝食
12:30 昼食	8:45 部屋点検
13:30 勾玉づくり	9:00 フォトラリー
16:30 野外炊飯	12:00 昼食
19:00 キャンプファイヤー	13:00 別れのつどい
20:30 入浴・休憩	
22:00 就寝	

協力して準備や片付けを行うことで、グループの協力性や信頼感を高めることができました。

1日目で深めた協力性をもとにして、より主体的に活動に取り組むことができました。

11 いじめの未然防止にかかわって期待できる効果

- ①自己有用感・自己存在感の向上

振り返りを通して、活動中の自他の果たした役割や意識などに気付き、自己有用感や自己存在感を高めることができる。

- ②望ましい人間関係の育成

宿泊研修全体を通して、思いやりのある行動が増え、対人関係スキルが向上するなど人間関係を円滑にする効果が期待できる。



青少年教育施設と連携した取組【環境づくり】 ～ ネイパル森 ～

1 活動名

いじめをなくすアクションプランづくり

2 対象

高等学校第1学年（80名程度）

3 時期

9月

4 活動の概要

いじめをなくすための行動を考え、学年全体で共有する。

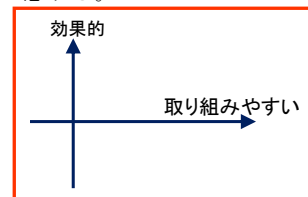
5 ねらい

- ・これまでの学校生活を振り返り、生徒相互や集団との望ましいかかわり方を考える。
- ・いじめをなくすために必要な行動を学年集団として共有する。



6 活動の流れ（90分）

いじめをなくすアクションプランづくり		
項目	内容	配慮事項
●意図説明（5分）	◆目的やゴールの説明	■5～6名のグループで座る。
●これまでの活動のふりかえり（10分）	◆グループごとに、自分以外のメンバーの活動で気付いたことや、自分はどんな意識で活動したかを話し合う。	■引率者が気付いたことも各グループに伝える。
●いじめについての理解（25分）	◆いじめとは、どのような状況かを個人で考えたあと、話し合う。（ラベルワーク） ◆グループ内で個人の考えをまとめる際に、暴力系、ネット系など似た考えにタイトルを付ける。 ◆グループごとに話し合ったあと、全体でグループの意見を発表し、どのようなタイプのいじめがあるか確認する。	■話し合う前に、各自の考えを付せん紙に書く。 ■グループで話し合う際、大きな紙に個人が書いた付せん紙をはる。
●いじめをなくす方策の検討（40分）	◆いじめをなくすための方策を話し合う。（ブレインストーミング、2軸法） ◆個人でできるだけ多くの方法を考え、付せん紙に書き、グループ内で考えを出し合う。 ◆グループ内で出された考えを、いじめをなくす効果の大きさと取り組みやすさで整理し、効果の大きな方策を3つ選び、全体の前で発表する。 ◆学年全体で取り組む方策を3つ選び、アクションプランとして決定する。	■ブレインストーミングの4つの原則（質より量、自由な考え、批判厳禁、他人の考えに便乗可）を確認するとともに、ふざけすぎないように注意する。
●まとめ（10分）	◆グループ内でここまでの感想を話し合い、宿泊研修の残りの日程で実践する内容を確認する。	■引率者も感想を伝える。



7 研修全体の日程例

1日目	2日目	3日目
9:30 到着、出会いのつどい	9:00 サイクラリー (大沼公園一周コース)	9:00 創作活動 (森のフレーム、カードク リップ、My はしから選択)
10:00 コミュニケーショントレー ニング	※雨天時： ウォークラリー、	10:30 全体振り返り (アクションプランの確認 を含む)
11:30 野外炊事1	ミニバレー大会	11:00 別れのつどい、出発
15:00 いじめをなくすアクション プランづくり	15:00 野外炊事2	
17:30 夕食	19:00 キャンプファイヤー	
18:30 軽スポーツ (キンボール)	20:00 入浴・休憩	
20:00 入浴・休憩	22:00 就寝	
22:00 就寝		

大沼公園一周 24km のコースで、グループの協力を高めます。

野外炊事を2回行うことで、生活技能や協力の向上を実感できます。

8 事前準備 (打合せ)、指導の例

- ①子ども理解支援ツール「ほっと」による生徒の実態把握を踏まえた打合せ
夏休み明けに「ほっと」を実施して生徒のコミュニケーションの実態を把握し、宿泊研修の指導の観点と各プログラムの進行について、施設職員と学校担当で打合せを行う。
- ②ネイパル森職員の出前講座によるコミュニケーショントレーニング
宿泊研修の効果を高めるため、施設職員が出前講座で生徒が自らのコミュニケーションの傾向を自覚できるような活動を行う。

9 事後の研修成果の活用例

- ①アクションプランの実践
アクションプランを定着させるため、学級単位の計画づくりや強調月間を設けるなどの取組を行う。
- ②ホームルーム等でのワークショップ手法の活用
ホームルームでの話し合いを活性化するため、アクションプランづくりで実践したラベルワークや2軸法などのワークショップの手法を活用する。

10 参考事例

・ネイパル森主催事業「高等学校生徒会フォーラム」

(平成 27 年 11 月 6 日 (金) ~8 日 (日))
(生徒会役員 11 校 49 名 (引率 11 名))

ラベルワークや2軸法、ブレインライティングなどのワークショップの手法を用いて、各学校で取り組む生徒会活性化プランを作成した。



11 いじめの未然防止にかかわって期待できる効果

- ①実効性のあるアクションプランの作成
コミュニケーショントレーニングや野外炊事などの活動と連続して、アクションプランづくりに取り組むことで、実際の行動をイメージしたプランづくりを行うことができる。
- ②人間関係の再構築
アクションプランづくりで人とのかかわりを考えたあとに、様々なグループ活動を行うことで、これまでと異なる人間関係を構築することができる。